

〔遺伝資源の収集・評価・保存〕  
アプロードフロアブルのワケネギに対する薬害について

竹内浩二  
(江戸川分場)

---

【要 約】アプロードフロアブルの定植時および定植 33 日後灌注処理により 30 日以上経過してからワケネギに薬害が発生する。症状は第 4 位葉に葉先から 5～8mm 程度円錐状に現れて下方に進展することはない。収穫期までには消失し、出荷生産物に影響はない。

---

【目 的】

アプロードフロアブル (ブプロフェジン 20%) はネギのネダニ類への登録拡大 (平成 30 年 2 月 28 日) によりワケネギにも使用できることとなった。しかしながら、長ネギなどにおいて薬害が確認されており、ワケネギで使用した場合の薬害の発生有無などについて明らかにする。

【方 法】

供試したワケネギは「東京小町」の最終選抜系統である江戸川分場維持系統 No. 13 を使用した。幅 95cm の白マルチに条間 30 cm×株間 20cm の 2 条植え (1 本/1 穴)。各処理区 10 本、2 反復とし 2018 年 4 月 10 日に定植した。施肥、その他管理は慣行とした。

薬剤処理は 1 回、時期として定植時および定植 1 か月後の株元灌注処理の 2 設定、濃度・処理量は登録 (500～1,000 倍, 1～3 L/m<sup>2</sup>, 株元灌注, 収穫 14 日前まで) の範囲内で m<sup>2</sup> あたり 500 倍/3 L, 1,000 倍/3 L, 500 倍/1 L, 1,000 倍/1 L の 4 処理区とした。

【成果の概要】

1. 定植時処理では処理 49 日後に 500 倍/3 L, 1,000 倍/3 L 区において葉の先端が褐変する障害が発生した (図 1, 3)。定植 33 日後処理では処理 30 日後に 500 倍/3 L, 1,000 倍/3 L 区において葉の先端が褐変する障害が発生した (図 2, 3)。供試した濃度・処理時すべてで薬害の発生を認めた。障害の発生期間は定植時処理では処理後 49～136 日、定植 33 日後処理では 30～84 日後であった。
2. 薬害が発生する葉位 (図 4) は平均で約 4 であった (表 1)。葉位 1 および 2 の葉に障害は発生しなかった。
3. 葉先の褐変障害は葉先から約 5～8mm に円錐状に現れる (図 3)。その後、下方に進展することはない。
4. 収穫可能と判断した 9 月 18 日に 1 穴内の収量を調査したが、平均 50 本前後に分けついでいて区間の差はほとんどなかった。収量に対する影響は認めなかった。

【残された課題・成果の活用・留意点】

本薬害症状は薬剤灌注処理後約 30 日以上を経過してから発生し、定植時で 4 ヶ月前後、定植後 33 日灌注処理で 3 ヶ月まで発生する。本剤の定植時または 1 ヶ月前後までの使用であれば、収穫期までには薬害の発生は見られなくなる。また、発生葉位も大きいので、出荷のための調整作業により出荷株に薬害発生葉が残ることはない。

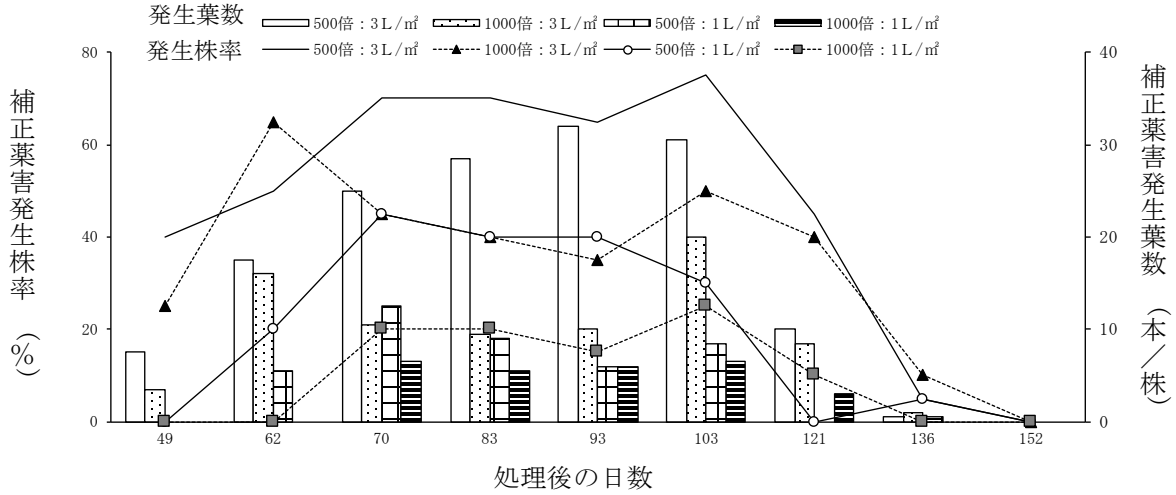


図1 定植時灌注処理における薬害発生株率と株あたり発生葉数

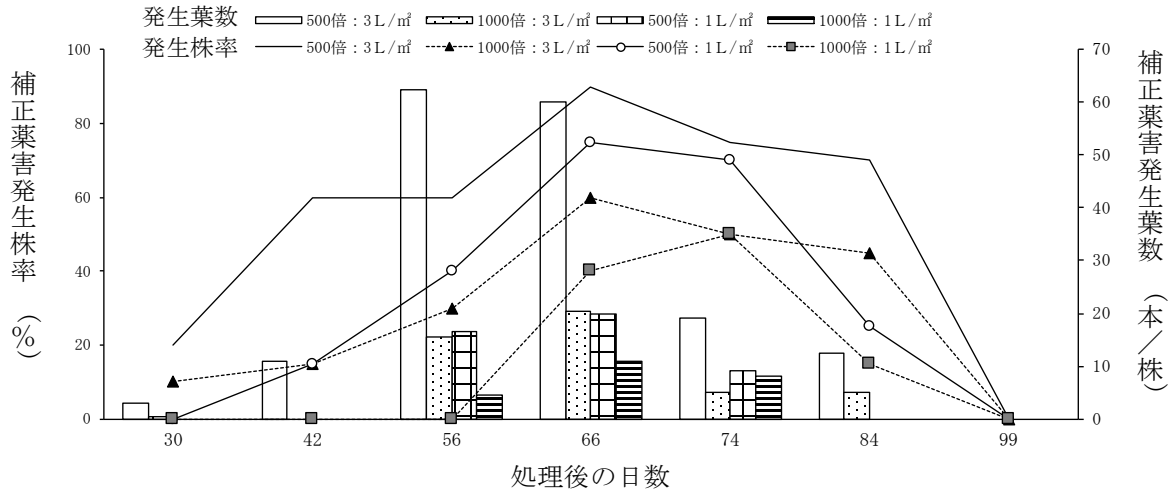


図2 定植33日後灌注処理における薬害発生株率と株あたり発生葉数

表1 薬害発生葉位<sup>a</sup> (定植33日後灌注処理56日後)

処理量	500倍 : 3L/m <sup>2</sup>	1000倍 : 3L/m <sup>2</sup>	500倍 : 1L/m <sup>2</sup>	1000倍 : 1L/m <sup>2</sup>
発生葉位	3.90	4.15	4.05	4.00

a) 1株中の最も若い葉を1とした, 1区10株 (発生株が満たない場合は全数) 2反復の平均値



図3 葉先の褐変症状 (薬害)

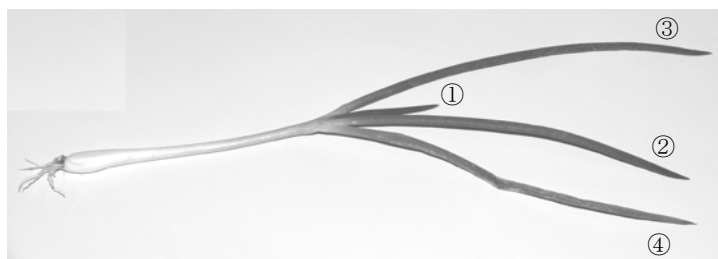


図4 葉位について